

様式2 愛媛県 赤石五葉松GFPグローバル産地計画 (えひめ愛フード推進機構：四国中央市、新居浜市、西条市)

1. 取組の概要

愛媛県東予東部は、日本三大五葉松と称される盆栽「赤石五葉松」の産地である。育成圃場において長年にわたり管理されているが、生産者の高齢化が進行し、産地継続が危ぶまれている。ヨーロッパ各国では年月を経た貴重な盆栽は人気が高いため、EUへの輸出に取り組み、地域の活性化につなげる。

輸出にあたっては、植物検疫条件で2年程度の特別管理が必要なため、早期に体制を整え、輸出用盆栽を確保したうえで、販売促進活動に取り組む。



管理されている盆栽の育成圃場



JETRO愛媛によるバイヤー招聘

2016年よりJETRO愛媛によるEUからのバイヤー招聘や盆栽の産地商談会を開催して商談を進めたところ、2017年に初輸出できた。現在の輸出国はフランス・ドイツであるが、今後輸出量の拡大と他のEU諸国への販路の拡大を目指していく。



ローマ教皇への赤石五葉松の贈呈

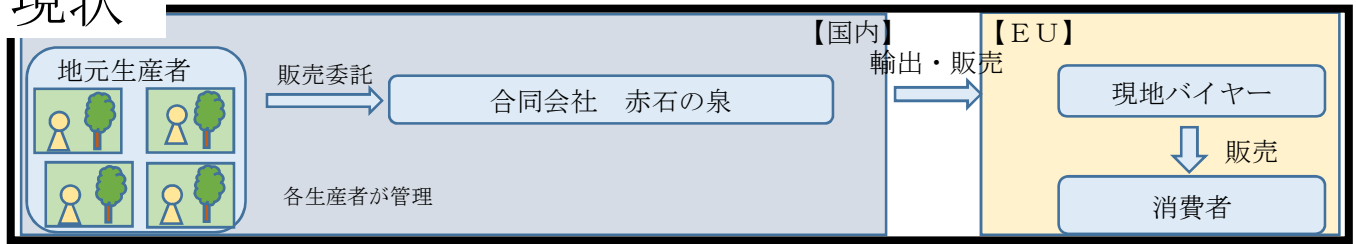


EU現地調査

2019年10月に赤石五葉松の盆栽2鉢（100年物、150年物）をイタリア・ローマ教皇へ寄贈したことで、認知度も高まってきている。これを契機にEUへの輸出事業に弾みをつけたいと考えている。

日本で年月を経た貴重な五葉松の盆栽（樹齢50年以上）は評価が高く、日本産の盆栽は高値で販売されているが、手に入りにくい状況にある。新たに安価な入門用盆栽に加え、手入れなどのメンテナンスにも対応し、赤石五葉松の新たな需要の掘り起こしと継続して盆栽が楽しめる環境を整備する。

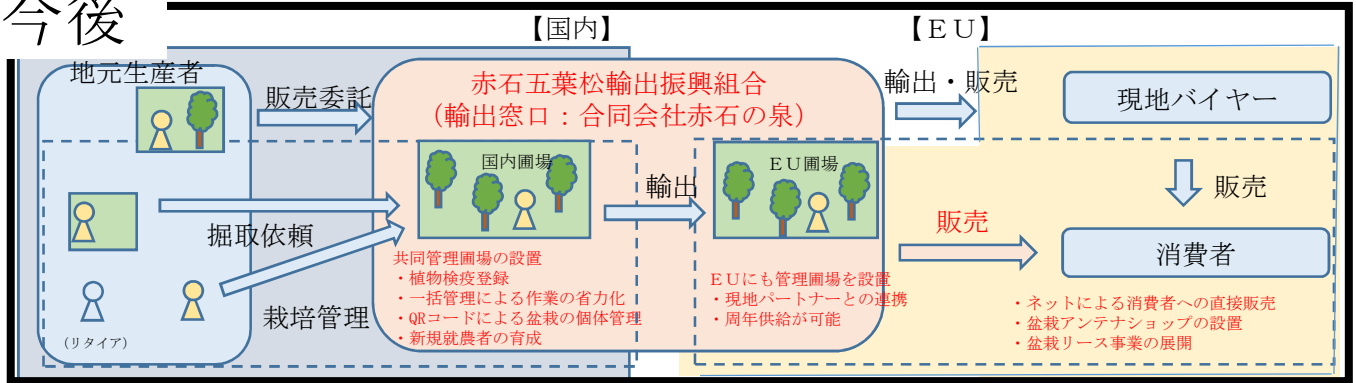
現状



現在の課題

- ・生産者の高齢化、撤退による生産量の減少
- ・国内販売価格の低迷

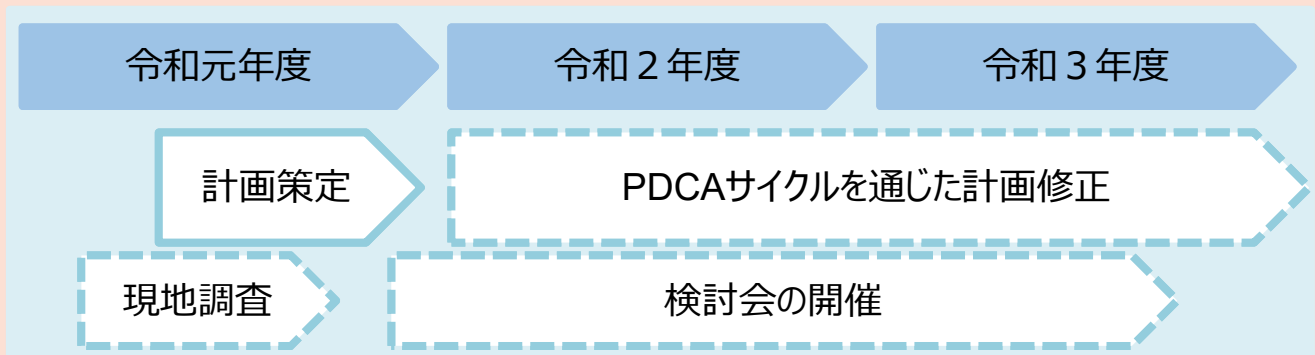
今後



2. GFP グローバル産地形成の取組内容

計画策定

赤石五葉松GFPグローバル産地計画



施設等	事業内容	予定実施年度
管理圃場	栽培農家より買取盆栽等の検疫培養所の確保	2019年度
掘り取り機	盆栽の掘り取り機を導入	2020年度
輸出専用圃場	輸出用盆栽の展示培養所を設置する。(輸出振興組合)	2020年度
盆栽ショップ	EU(ドイツ・ミュンヘン)に盆栽アンテナショップを設置する。	2020年度
EU管理圃場	EU側にも管理圃場を設け、常に販売できる体制とする。	2021年度
ホームページ	赤石五葉松の紹介と販売サイトを立ち上げる	2021年度
盆栽鉢の開発	愛媛県窯業技術センター、砥部焼窯元、菊間瓦組合共同開発	2021年度



生産・加工等の体制構築

「赤石五葉松輸出振興組合」 設立 (2019年8月)



①輸出条件整備

輸出用の特別管理圃場の確保など植物検疫上必要とされる課題への対策

②輸出用盆栽の安定供給

EUでは輸入できる期間が11月から3月と限られるため、周年を通して安定供給ができるよう現地管理圃場を設置し、国内外で供給体制を整備

③販路の拡大

フランス、ドイツを中心に販売体制を多様化させ新たな販路の開拓、輸出先国の拡大

具体的取組

①輸出条件整備

- ・ 検疫培養所、展示培養所の設置
- ・ 共同管理体制の構築・セラミックを用いた資材によるセンチュウ対策
- ・ QRコードによる個体識別管理



赤石五葉松の植え替え

②輸出用盆栽の安定供給

- ・ 掘取機械の導入等による作業の省力化
- ・ EUでの現地管理圃場設置による周年供給体制の整備
- ・ GI登録への取組



掘取機械の導入による省力化

③販路の拡大

- ・ バイヤー招聘、展示会への出展、EUに盆栽アンテナショップを設置
- ・ インターネット販売、リース事業を開始
- ・ 安価な入門用五葉松盆栽の提供
- ・ 資材メンテナンスも含めた継続的な関係構築



G20労働雇用大臣会合での展示

スケジュール

	令和元年度	令和2年度	令和3年度
輸出条件整備	- 検疫培養所設置 - 共同管理体制の構築	- 輸出盆栽用展示培養所の設置 - QRコードによる個体識別管理 - GI登録への取組	- セラミック資材(培土)の開発 - 地域特産品と連携した鉢の作成
安定供給 輸出用盆栽の		盆栽掘り取り機の導入	EUにおける管理圃場の設置
販路拡大	展示会出展	盆栽アンテナショップの設置	盆栽のリース事業を展開 インターネットを活用した体制の構築

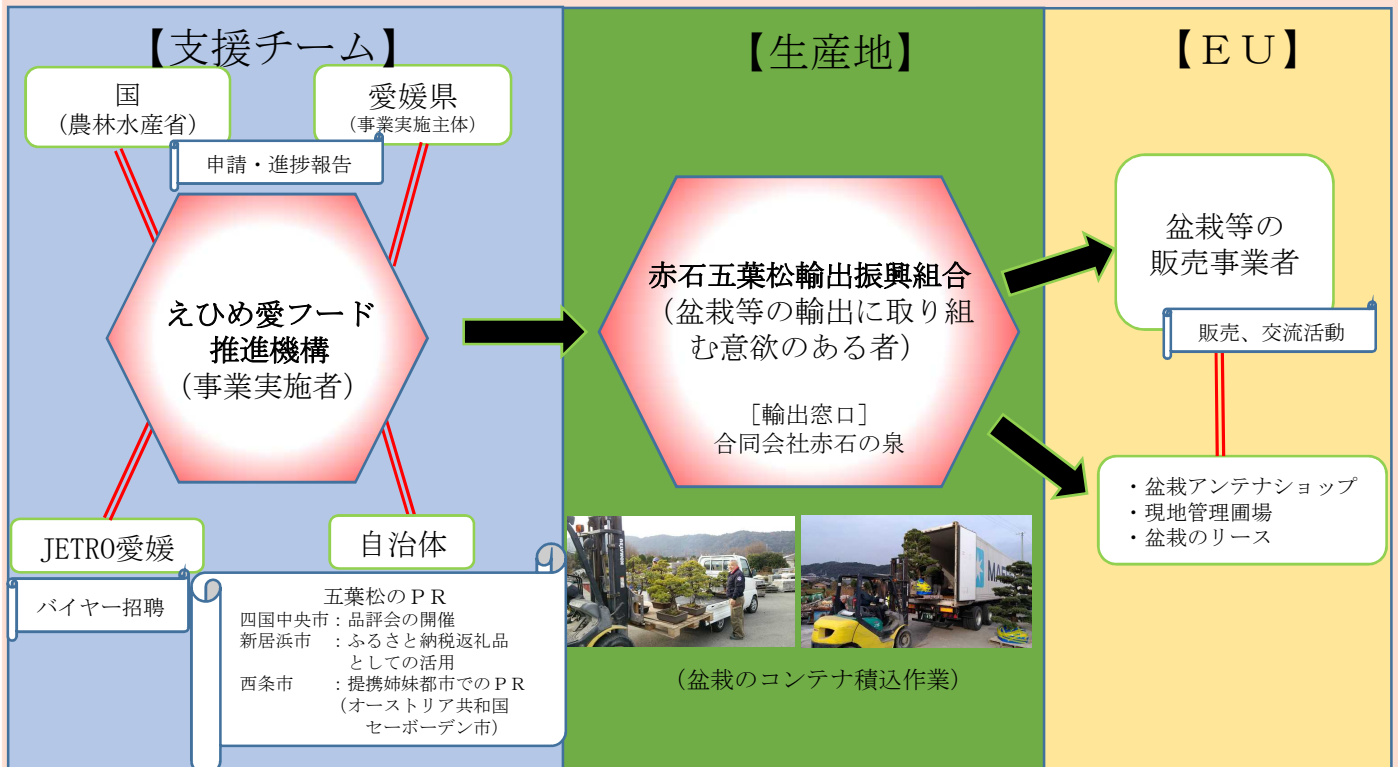


事業効果の検証・改善

計画の策定 (P)	事業の実施 (D)	評価・検証 (C)	改善 (A)
GFPグローバル産地計画の策定 - 目標数値設定 - 実施取組の整理 - 使用事業の選定	選定事業の実施 輸出条件整備 - 検疫培養所の設置 - QRコードによる個体識別管理 - セラミック資材を活用したセンチュウ対策 輸出用盆栽の安定供給 - 掘り取り機の導入 - EUに管理圃場を設置 販路拡大 - 展示会への出展 - 盆栽アンテナショップの設置 - 盆栽リース事業の展開	実施事業に対する評価・検証 - 実施事業進捗確認 - 目標額に対する達成度調査 - 課題の整理、要因の分析	課題の分析・計画修正 - 検証結果の反映方針検討 - 次年度に向けた計画の見直し



その他



3. G F P グローバル産地計画のアウトプット

- 輸出への理解を深め、意欲のある農業者が一体となって輸出に取り組む。
- 地域に眠る盆栽の植物検疫条件に対応した管理を行い、輸出量を確保する。
- 地域で盆栽管理が継承できる体制を整える。
- 鉢土の改良によるセンチュウ対策を実施する。
- ブランド力の向上のため、IT活用による個体管理を行う。
- バイヤー招聘、展示会の出展、盆栽アンテナショップの設置など販路開拓を行う。
- 新たな販路開拓による販売価格の向上と後継者の育成。
- 地域の活性化。
- 輸出額 現状（平成30年） 685万円 → 目標年（令和4年） 3,685万円